



贈る言葉



オフィスPrima 代表
フリーアナウンサー
ビジネスマナー講師
とおる ちほ
透 千保

東海地方の各放送局(岐阜放送/ぎふチャン、FM GIFU、東海ラジオ、メ~テレなど)で数多くの番組やニュースを担当。司会、ナレーションの他、名鉄電車、名古屋市営地下鉄など、公共交通機関のアナウンス放送に携わる。

一方、企業・大学において、ビジネスマナー、電話対応などの研修講師を務め、人財育成に取り組んでいる。

3月は別れの季節。校長による祝辞、在校生の送辞と卒業生の答辞の交換、そして感動と涙、という私たちがよく知っている卒業式は明治時代に成立した日本独特のものだそうです(有本真紀『卒業式の歴史学』)。こうして卒業式は、これまでお世話になった学舎や恩師、共に学んだ仲間たちに別れを告げ、達成感と寂しさと希望を分かち合って新たな旅立ちをする人生の大変な節目の日となったのです。

一方、欧米の大学での卒業式では、企業の経営者、一流の俳優、映画監督などの著名人が招かれてスピーチをすることがあります。

昨年、俳優のトム・ハンクスは、オーストラリア滞在中に新型コロナウイルスに感染したものの無事回復し、アメリカのライト州立大学のオンライン卒業式でスピーチを行いました。新型コロナウイルスを克服した“その後”を生き抜くことになる若者達を激励し、「新しい日常を再び創ることができるのは、若々しい君たちをおいて他にない。その意味で君たちは選ばれた人たちなのだ。」「未来は常に不確かだ。しかし今日、確かなことが一つある。君たちはよくやった！これからも頑張ってくれると信じている。」と次代を担う才能を称えたのです。感染症で困難に直面した世代に、単に同情するだけでなく、だからこそ新しい世界を創るために「選ばれた」のだとエールを送ったことに感銘を受けました。

卒業を英語で“graduation”と言いますが、その語源はラテン語の“gradus (グラドゥス)”で、「階段、段階」を表します。つまり、階段を上って行くということでしょうか。もう一つ、卒業を表す英語に“commencement”という言葉もありますが、こちらは“begin”や“start”など同じように始まりを意味するのだそうです。卒業とは、学業がここで終わったということではなく、これから新たなステージに向けて歩み出すということなのです。

もし皆さんが、学校を卒業して新しい環境に身を置こうとしている若い頃の自分に伝えるとしたら、どんな言葉を贈りますか？私だったら、「あれほど悩んだことも、人生を俯瞰して見ればほんのわずかな期間。つらいことが起きた時は、自分が成長していくためのチャンスだよ！」でしょうか。何だか今の自分にも贈りたい言葉です。

新たなキャリアに向けて旅立つ方、想定外の出来事により思うように人生の設計図が描けなかつた方、特別だったこの年度の替わり目には、いろいろな想いがあることだと思います。でも、どんな経験でも決して無駄にはならないはず。日常生活を取り戻した時に備えての準備期間だと考えましょう。今が人生の階段を上っている最中だとしたら、階段を上ったその先にある風景を見てみたいと思います。